

医薬品  
医薬部外品 研究報告 調査報告書  
化粧品

22

識別番号・報告回数		報告日	第一報入手日	新医薬品等の区分	機構処理欄
一般的名称	人赤血球濃厚液	研究報告の公表状況	2005. 4. 25	該当なし	
販売名(企業名)	赤血球 M・A・P「日赤」(日本赤十字社) 照射赤血球 M・A・P「日赤」(日本赤十字社)		J Gen Virol. 2005 May;86(Pt 5):1571-9.	公表国 英国	
研究報告の概要	<p>GPI (glycosylphosphatidylinositol) 結合型糖タンパクである PrP<sup>C</sup> は、一般に PrP<sup>Sc</sup> と呼ばれる疾患に関連するイソフォームへの構造変化を受け、感染性海綿状脳症 (TSE) の病因において中心的役割を果たす。PrP<sup>C</sup> の正確な機能は明らかになっていないが、神経系以外の多くの組織で発現する。TSE が輸血によりヒツジに感染し得ることは、過去に示されている。本稿の目的は、感染因子を運ぶ血液成分を特定することであった。第一段階として、考えられる感染因子の標的を特定するため、ヒツジの血液細胞成分における PrP<sup>C</sup> の分布を検討した。末梢血単核細胞 (PBMC) のみで細胞表面に PrP<sup>C</sup> の発現が認められた。しかし、血小板にも有意な量の細胞内 PrP<sup>C</sup> が認められた。PBMC の細胞表面に発現した PrP<sup>C</sup> 値は PrP 遺伝子型の影響を受け、最高値はスクレイピー感受性 VRQ/VRQ ヒツジで、また最低値はスクレイピー耐性 ARR/ARR ヒツジで認められた。感受性ヒツジでは、PrP<sup>C</sup> は PBMC の主なサブセットすべてにおいて異なるレベルで発現し、最高値は B 細胞 CD21(+)サブセットで認められた。CD21(+)B 細胞の PrP の発現が劇的に upregulate されたスクレイピー感染ヒツジにも存在した。</p>				<p><b>使用上の注意記載状況・ その他参考事項等</b></p> <p>赤血球 M・A・P「日赤」 照射赤血球 M・A・P「日赤」</p> <p>血液を介するウイルス、 細菌、原虫等の感染 vCJD 等の伝播のリスク</p>
	報告企業の意見	今後の対応			
<p>感染性海綿状脳症 (TSE) の感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的に、ヒツジの血液細胞成分における PrP<sup>C</sup> の分布を研究したとの報告である。</p>	<p>日本赤十字社では、vCJD の感染リスク低減の目的から、血液製剤の保存前白血球除去の導入を進めている。今後も引き続き、プリオン病に関する新たな知見及び情報の収集に努める。</p>				

24